

### Ⅲ 健康増進課

#### 1 健康づくり推進事業

##### (1) 「健康津軽21（第2次）」の推進

管内の早世の減少と健康寿命の延伸を目標に、住民主体の健康づくりを進めていく計画として平成13年度に「健康津軽21」を策定した。その後中間報告と見直しを経て、平成24年度に最終評価し、その結果、目標値に達した又は改善傾向にある指標の割合は全体の4割となっており、分野別では「歯の健康」、「こころの健康づくり」、「たばこ」に改善傾向が見られたが、「身体活動・運動」、「循環器病」、「がん」等に関する項目については、依然横ばいや悪化と評価された。この最終評価を踏まえて、平成25年度を初年度とする「健康津軽21（第2次）」を策定した。策定内容は、健康津軽21に引続き「肥満予防対策」、「喫煙防止対策」、「自殺予防対策」を重点課題として、以下3領域、12分野について取り組み、「管内市町村健康増進計画（第2次）」と連動させながら推進を図っていく。

##### ① 「生活習慣の改善」の領域

栄養・食生活、身体活動・運動、飲酒、喫煙、歯の健康の5分野

##### ② 「生活習慣病の発生予防と重症化予防」の領域

がん、循環器疾患、糖尿病、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の4分野

##### ③ 「こころの健康」の領域

こころの健康、認知症、休養（睡眠）の3分野

##### (2) 喫煙対策事業

喫煙は肺がんをはじめ多くの疾患の危険因子であり、喫煙者本人の健康被害だけでなく、受動喫煙により周囲の人へも健康被害を及ぼす。更に、次世代を担う未成年者や胎児にまで影響を与えることから、喫煙による健康被害に対する予防意識の普及啓発を図った。

##### ア 研修会・機会教育等実施状況

事業名	開催年月日	対象者・参加者	内容	講師
禁煙教室	平成25年 5月31日(金)	青森県立弘前高等技術専門学校の学生・ 教員115名	たばこと健康	弘前保健所 技師 柴田早紀
防煙・禁煙教室	平成25年 10月10日(木)	みちのくコカ・コー ラボトリング(株)黒 石営業所の職員18名	生活習慣病の予 防について	弘前保健所 主査 阿部久美
禁煙教室	平成25年 12月17日(火)	弘前地区農業士会員 34名	喫煙、食生活(減 塩、間食、飲酒)	弘前保健所 主査 久米田佳子 技師 柴田早紀

##### イ 公共施設等における禁煙・効果的な分煙の推進

事業名	対象等	内容
受動喫煙防止対策 推進のための事業所訪問	公共交通機関（弘南鉄道株 式会社、JR 東日本弘前駅）	・「健康あおもり21」における喫煙対 策への協力依頼 ・空気クリーン施設認証制度のPR ・禁煙への協力依頼
空気クリーン施設の認証	新規登録施設数3件 累計470件	・適合施設の登録及び適合証の交付 ・ホームページへの掲載

ウ 広報活動

- ・ホームページの活用：空気クリーン施設
- ・教育媒体の貸し出し：3件（学校薬剤師・薬剤師会・小学校）
- ・市町村、教育機関、薬剤師会、飲食店、来所者等への受動喫煙防止に関するパンフレットの配布（計350部）

(3) 健康教養普及定着事業

県民自ら健康づくりに取り組み、健康的な生活習慣の実践ができるように、県民への健康意識を喚起し、健康教養の向上を図るため、その担い手となる人材を育成することを目的に、管内市町村保健協力員を対象に研修会を開催した。

○受講者数：50人（サポーター登録数：33人）

開催年月日	場 所	講 師	内 容
平成 26 年 8 月 21 日(水) 10:00～14:30	平川市文化センター	社団法人青森県薬剤師会 衛生検査センター所長 川村 仁氏	・青森県の現状について ・健康教養向上の必要性について ・教材（DVD）の使い方について ・健康教育を実施する際のポイント ・健康教養サポーターの登録制度

(4) 糖尿病地域診断機能強化推進事業

市町村の健康課題を明らかにし、地域の健康施策の企画評価に活用することを目的に実施した。

ア 特定健診等関連データ分析結果活用検討会の開催

- ・市町村健診データ（国保分）等について地域診断ツールを用いて分析し活用を図るため、市町村職員（保健師・国保担当者）を対象に検討会を実施した。

（内容）特定健診、レセプトデータ等分析結果の活用

開催年月日	場所	講師	出席者	出席市町村
平成 26 年 2 月 17 日(月) 13:30～15:40	大鰐町役場	健康福祉部保健医療政策指導監 大西基喜 がん・生活習慣病対策課 主幹 山田 淑子	19人	弘前市、黒石市、 西目屋村、田舎館村、 大鰐町、板柳町

イ 平成 23 年度特定健診状況データ分析（国保分）

- ・地域診断ツールを活用して、管内市町村の平成 23 年度特定健診データ（国保分）を取りまとめて分析整理し、がん・生活習慣病対策課及び市町村へ情報提供を行った。

(5) 市町村健康づくり活動への支援

ア 市町村健康づくり推進協議会等への参加

市町村	名称	委員	開催年月日	出席者	内容
弘前市	ひろさき健康福祉改革プロジェクトチーム会議	地域健康福祉部長(所長)	平成25年7月23日	山中所長	①平成24年度実施事業の実績検証、平成25年度事業の進行管理に関すること ②平成26年度の具体的事業提案に関すること  ※弘前市民健康推進協議会は出席なし。
	ひろさき健幸いきいきプロジェクトチーム会議		平成25年11月12日		
黒石市	健康づくり推進協議会	所長	平成25年5月29日	山中所長 工藤主査 千葉技師	①平成24年度事業実績 ②平成25年度事業計画
平川市	健康づくり推進協議会	所長	平成26年2月20日	山中所長 阿部主査	「第2次健康ひらかわ21」の進捗状況
西目屋村	健康づくり推進協議会	所長	開催なし	—	—
藤崎町	健康づくり推進協議会	所長	平成25年10月4日	福嶋専門員	平成25年度藤崎保健事業について
			平成26年3月19日	山中所長 千葉技師	平成25年度藤崎保健事業について
大鰐町	健康づくり推進協議会	所長	平成26年8月27日	山中所長 柴田技師	①平成24年度保健事業概要について ②平成25年度保健事業計画について ③健康づくりウォーキングの実施について
田舎館村	健康づくり推進協議会	所長	平成26年1月10日	柴田技師	「健康いなかだて21(第2次)」計画の協議
板柳町	健康づくり推進協議会	—	開催なし	—	—

イ 健康づくり計画策定会議等への参加

市町村	名称	委員	開催年月日	出席者	内容
弘前市	健康ひろさき21(第2次)策定会議	所長	平成25年11月20日	山中所長	健康ひろさき21(第2次)検討
			平成26年1月10日	山中所長	
			平成26年2月13日	山中所長	
黒石市	健康くろいし21策定委員会	所長	平成25年7月3日	山中所長 工藤主査 千葉技師	旧計画の最終評価報告 新計画素案の検討
			平成25年10月1日	山中所長 工藤主査 千葉技師	新計画素案の検討

## 2 母子保健事業

### (1) 妊産婦支援体制整備事業

虐待の発生予防として、育児の孤立化、育児不安の軽減に努め、母子保健の側面から地域養育支援体制を整備することを目的とする。

#### ア 産後うつ病の予防対策推進事業

市町村及び医療機関に対し、産後うつ病質問票の普及を図り、併せて医師、児童相談所、市町村の児童福祉・母子保健関係者等関係機関との検討会を開催し、産後の抑うつ状態の早期発見を推進することを目的とする。

#### (ア) EPDS の市町村・医療機関への普及推進会議（母子保健ネットワーク会議と併催）

平成 25 年度版として更新した「エンジンバラ産後うつ病スクリーニングに係る連絡窓口担当者名簿」を市町村へ配付し、産後うつ病の予防や早期発見のための活用について、働きかけた。

#### (イ) ケース検討会議（要保護児童地域対策協議会）

市町村主体で実施され、5 回出席（事例数 4 件）した。

#### イ 母子保健ネットワーク会議

保健・医療・福祉及び教育等関係者等により、市町村や関係機関が実施する母子保健対策の推進に係る協議・検討・研修を行い、地域保健との関係機関の連携体制整備を進めることを目的とする。

開催年月日	場所	出席者	内容
平成 25 年 10 月 4 日 (金)	独立行政 法人国立 病院機構 弘前病院	1. NICU 見学 市町村、保健所 計 22 名 2. 母子保健ネット ワーク会議 医療機関、市町村、 保健所 計 34 名	1. NICU 見学 (11:00~12:00) ・NICU・GCU、母子医療センター（病室、LDR 等）を見学した。 2. 母子保健ネットワーク会議 (1)行政説明 「未熟児等情報共有システム及び妊産婦情報共有システム運用状況について」 弘前保健所 技師 柴田 早紀 (2)講演 「母子センター退院後のフォローと機能不全家族に対する支援について」 独立行政法人国立病院機構弘前病院 小児科医長 杉本 和彦 氏 小児科医師 三上 珠希 氏 (3)情報交換 「母子保健関係者の連携について」 ・各市町村での未熟児及びハイリスク者への対応について情報交換、医療機関との意見交換等

### (2) 母子保健地域力向上セミナー

母子保健関係者の連携促進、支援体制の向上を目的に、中南地域県民局地域健康福祉部として児童相談所と共催で行っている。

開催年月日	場所	出席者	内容
平成 25 年 10 月 18 日(金) 13:30~15:00	青森県 武道館	里親、市町村職員、施設職員、 県内児童相談所職員、中南地 域県民局健康福祉部職員 計 33 人	講演：支援者・養育者のストレス とのじょうずなつきあい方 講師：弘前厚生学院 学院長 関谷 道夫 氏

### (3) 女性健康支援事業

#### ア 女性健康相談事業

女性がその健康状態に応じ的確に自己管理を行うことができるよう、気軽に相談できる体制を確立することにより、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図る。

・相談件数：38件

・相談内容：不妊相談38件（不妊専門相談センターへの紹介3件）

#### イ 特定不妊治療費助成事業

不妊治療のうち、体外受精及び顕微授精については、1回の治療費が高額でありその経済的負担が重いことから、治療費の一部を助成し経済的負担の軽減を図る。

・治療費助成承認件数：159件

### (4) 長期療養児療育指導事業

疾病により長期にわたり療育を必要とする児童（長期療養児）について、適切な療育を確保するために、その疾病の状態及び療育の状況を随時把握すると共に、その状況に応じた適切な指導を行い、長期療養児の日常生活における健康の保持増進及び福祉の向上を図る。

#### ア 小児慢性特定疾患医療受診券交付と指導指示の状況 (人)

番号	疾病区分	交付数	医療意見書中指導指示有の件数
01	悪性新生物	59	16
02	慢性腎疾患	26	1
03	慢性呼吸器疾患	13	0
04	慢性心疾患	64	0
05	内分泌疾患	89	11
06	膠原病	28	2
07	糖尿病	31	7
08	先天性代謝異常	19	3
09	血友病等血液疾患	17	0
10	神経・筋疾患	24	10
11	慢性消化器疾患	13	1
計		383	51

#### イ 療育指導

(ア) 所内相談 54件（新規医療券交付時及び継続申請時相談）

(イ) 家庭訪問 3件（継続申請及び医療機関からの依頼）

(ウ) 電話相談 36件（新規医療券交付時及び継続申請時の相談）

### (5) 小児慢性特定疾患医療受診券交付状況

治療が極めて困難で長期にわたる小児の特定疾患についての治療研究を推進し、その医療の確保と普及を図るとともに、患者家族の医療費の負担軽減を図るため、当該小児に対し小児慢性特定疾患医療受給者証を交付している。

(人)

年度	01 悪性 新生物			02 慢性 腎疾 患			03 慢性 呼吸 器疾 患			04 慢性 心疾 患			05 内分 泌疾 患			06 膠原 病			07 糖尿 病			08 先天 性代 謝異 常			09 免血 友疾 患等 ・血 液			10 神経 ・筋 疾患			11 慢性 消化 器疾 患			計		
	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25	23	24	25			
弘前市	42	43	39	17	12	17	11	12	11	31	29	36	60	58	59	15	13	17	20	18	21	18	16	16	8	10	11	10	11	16	3	8	7	235	230	250
黒石市	2	3	3	3	5	3	0	0	1	8	6	7	16	12	12	5	4	4	4	8	5	1	1	1	4	4	3	8	5	4	3	3	3	54	51	46
平川市	4	3	4	4	1	3	0	2	1	9	10	12	8	7	7	5	4	2	1	0	2	2	2	2	2	1	3	2	3	3	0	0	0	37	33	39
西目屋村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
藤崎町	9	7	4	0	0	0	0	0	0	2	2	3	5	6	7	7	2	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	28	21	17
大鱒町	6	7	7	0	2	1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	10	13	13
田舎館村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	3
板柳町	1	2	2	3	2	2	0	0	0	3	2	3	3	2	2	1	1	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	14	11	14	
合 計	64	65	59	27	22	26	11	14	13	54	50	64	95	87	89	35	26	28	30	29	31	21	19	19	14	15	17	21	20	24	9	14	13	381	361	383

## (6) 小児慢性特定疾患児手帳（ひまわり手帳）交付事業

小児慢性特定疾患治療研究事業の公費負担を受けている児童に対し、本人の健康状態の記録・かかりつけ医療機関の連絡先等を記入できる手帳を交付し、患児の福祉の増進に寄与している。

(人)

年度	疾患群											計
	01 悪性 新生物	02 慢性 腎疾 患	03 慢性 呼吸 器疾 患	04 慢性 心疾 患	05 内分 泌疾 患	06 膠原 病	07 糖尿 病	08 先天 性代 謝異 常	09 血友 病等 血液 ・免 疫疾 患	10 神経 ・筋 疾患	11 慢性 消化 器疾 患	
23年度	2	4	0	3	8	2	0	1	2	0	0	22
24年度	4	1	0	2	3	2	1	0	0	0	2	15
25年度	4	1	0	3	7	4	0	0	2	2	1	24

## (7) 先天性代謝異常等検査

フェニールケトン尿症等の先天性代謝異常、先天性甲状腺機能低下及び先天性副腎過形成症は、放置すると知的障害などの障害をきたすので、新生児期に血液によるマス・スクリーニング検査を行い、異常を早期に発見することにより、後の治療とあいまって障害を予防することを目的に実施している。

精密検査が必要と判断された場合、保健所において受診勧奨を行った。

(弘前市：3件、黒石市：2件、西目屋村：1件、藤崎町：1件、板柳町：1件/全8件)

(8) 妊婦連絡票等実施状況（平成 25 年度妊産婦情報共有システム実施状況報告より）

安全な妊娠、出産環境を構築し、子どもの健全な育成に資するため、医療と保健の連携体制の一層の充実強化を図ることにより、妊娠初期から産褥期まで、妊産婦及びその家族に対し一貫した支援を行うことを目的として、妊産婦情報共有システムが構築されている。

市町村別	妊娠届出数 (A)	妊婦連絡票提出数 (B) (B÷A)	妊婦保健指導報告書発行数 C (C÷B)	指導方法合計	窓口指導	訪問指導	電話指導	その他	要連絡・指導妊産婦連絡票受理数 (D)	妊産婦保健指導結果連絡票発行数 (E) (E÷D)	妊婦連絡票の提出はないが、保健指導をした数 (F) (F÷A)
弘前市	1,279	1,266 (99.0)	1,266 (100.0)	1,266	1,265	0	1	0	65	55 (84.6)	5 (0.39)
黒石市	235	234 (100.0)	234 (100.0)	234	234	0	0	0	14	13 (92.9)	1 (0.43)
平川市	202	199 (99.0)	199 (100.0)	199	162	0	37	0	7	7 (100.0)	2 (0.99)
西目屋村	13	13 (100.0)	13 (100.0)	13	13	0	0	0	0	0 (0.0)	0
藤崎町	107	107 (100.0)	107 (100.0)	107	96	3	8	0	1	1 (100.0)	0
大鰐町	31	31 (100.0)	31 (100.0)	31	31	0	0	0	1	1 (100.0)	0
田舎館村	60	60 (100.0)	60 (100.0)	60	59	0	1	0	4	4 (100.0)	0
板柳町	77	77 (100.0)	76 (98.7)	76	75	0	1	0	6	5 (83.3)	0
計	2,004	1,987 (99.0)	1,986 (99.9)	1,986	1,935	3	48	0	98	86 (87.8)	8 (0.40)

(9) 未熟児等訪問指導状況（平成 25 年度未熟児等情報共有システム実施状況報告より）

未熟児は、その未熟児性から疾病にもかかりやすく、心身の障害を残すことがあり、未熟児を養育する保護者の不安等も強いことから、未熟児等訪問指導を通じて養育支援を適切に進めるために関係機関との情報共有、連携体制の構築を図る。

市町村名	低出生体重児	未熟児養育医療申請数	未熟児等出生連絡票受理数	出生時体重					在胎週数			未熟児等訪問指導連絡票発行数
				1,000g未満	1,000～1,500g未満	1,500～2,000g未満	2,000～2,500g未満	2,500g以上	妊娠22～34週未満	妊娠34～37週未満	妊娠37週以上	
弘前市	122	23	51	1	5	15	26	4	13	22	16	56
黒石市	17	7	14	2	2	1	6	3	6	2	6	22
平川市	16	8	8	1	0	4	3	0	1	7	0	7
西目屋村	4	0	3	0	0	2	1	0	0	3	0	3
藤崎町	14	2	5	0	0	2	3	0	1	2	2	5
大鰐町	1	0	2	0	0	0	2	0	0	1	1	2
田舎館村	6	1	3	0	0	1	2	0	1	1	1	3
板柳町	7	4	3	0	1	0	1	1	2	0	1	3
計	187	45	89	4	8	25	44	8	24	38	27	101

(10) 平成25年度1歳6か月児健康診査実施状況(平成25年度母子保健事業実施状況調査より)

ア 一般健診

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
弘前市	1,218	1,152	94.6
黒石市	210	207	98.6
平川市	214	200	93.5
西目屋村	7	7	100.0
藤崎町	117	109	93.2
大鰐町	45	44	97.8
田舎館村	55	51	92.7
板柳町	82	80	97.6
管内計	1,948	1,850	95.0

\*受診率が管内平均より低い市町村は、弘前市、平川市、藤崎町、田舎館村である。

イ 歯科健診

	対象者数(人)	受診者数(人)	むし歯の総数(本)	1人あたりのむし歯本数
弘前市	1,218	1,151	58	0.05
黒石市	208	207	5	0.02
平川市	214	201	30	0.15
西目屋村	7	7	0	0
藤崎町	117	109	5	0.05
大鰐町	44	43	1	0.02
田舎館村	55	51	0	0
板柳町	82	80	0	0
管内計	1,945	1,849	99	0.05

\*1人あたりのむし歯本数が管内平均より多い市町村は、平川市である。

(11) 平成25年度3歳児健康診査実施状況(平成25年度母子保健事業実施状況調査より)

ア 一般健診

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
弘前市	1,299	1,232	94.8
黒石市	234	231	98.7
平川市	225	219	97.3
西目屋村	10	9	90.0
藤崎町	109	106	97.2
大鰐町	44	43	97.7
田舎館村	69	65	94.2
板柳町	89	87	97.6
管内計	2,079	1,992	95.8

\*受診率が管内平均より低い市町村は、弘前市、西目屋村、田舎館村である。

イ 歯科健診

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	むし歯の総数 (本)	1人あたりのむし歯本数
弘前市	1,299	1,232	1,231	1.00
黒石市	238	231	428	1.85
平川市	225	219	296	1.35
西目屋村	10	9	10	1.11
藤崎町	109	106	163	1.54
大鰐町	44	43	51	1.19
田舎館村	69	65	79	1.21
板柳町	89	87	70	0.80
管内計	2,083	1,992	2,328	1.17

\*1人あたりのむし歯本数が管内平均より多い市町村は、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村である。

ウ 耳鼻咽喉科

(ア) 一次健診及び精検結果

	一次健診及び精検受診状況						精検結果 (延)									
	対象人員	受診実人員	受診率 (%)	要精検人員	精検受診実人員	精検受診率 (%)	難聴なし	難聴疑い	難聴	その他の耳鼻咽喉科疾患等						その他
										滲出性中耳炎	耳垢塞栓	慢性副鼻腔炎	口蓋扁桃肥大・アデノイド増殖症	音声又は言語の障害	その他	
弘前市	1,299	1,232	94.8	235	208	88.5	3	15	0	95	47	64	22	3	7	31
黒石市	234	231	98.7	35	34	97.1	11	15	0	21	7	4	1	0	0	0
平川市	225	219	97.3	13	11	84.6	7	4	0	8	0	1	1	0	0	0
西目屋村	10	9	90.0	2	2	100	2	0	0	1	0	1	1	0	1	0
藤崎町	109	106	97.2	23	18	78.3	11	1	1	8	5	8	2	1	0	0
大鰐町	44	43	97.7	7	7	100	6	1	0	2	2	0	0	0	0	0
田舎館村	69	65	94.2	1	1	100	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
板柳町	89	87	97.6	43	38	88.4	31	2	0	6	9	23	6	0	5	0
管内計	2,079	1,992	95.8	359	319	88.9	71	39	1	142	70	101	33	4	13	31

\*精検受診率が管内平均より低い市町村は、弘前市、平川市、藤崎町、板柳町である。

### 3 健康増進事業

#### (1) 保健事業費国庫及び県負担金関係

平成 25 年度保健事業費国庫及び県負担金実績報告にかかるヒアリング聴取を行った。

・日程及び場所：平成 26 年 4 月 16 日～18 日（於）弘前保健所、出席者：8 市町村担当者

#### (2) 各種検診等実施状況

##### ア 歯周疾患検診（H24年度地域保健・健康増進事業報告より） (人)

市町村名	受診者数	指導区分別人員		
		要精検	要指導	異常を認めず
弘前市	796	692	16	88
黒石市	112	101	3	8
平川市	0	0	0	0
西目屋村	0	0	0	0
藤崎町	54	19	23	12
大鰐町	19	18	0	1
田舎館村	0	0	0	0
板柳町	8	2	2	4
管内計	989	832	44	113

##### イ 骨粗鬆症検診（H24年度地域保健・健康増進事業報告より） (人)

市町村名	受診者数	指導区分別人員		
		要精検	要指導	異常を認めず
弘前市	298	13	58	227
黒石市	112	22	27	63
平川市	312	22	45	245
西目屋村	16	6	6	4
藤崎町	0	0	0	0
大鰐町	81	25	29	27
田舎館村	0	0	0	0
板柳町	130	19	57	54
管内計	949	107	222	620

ウ その他の健康増進事業 (H24年度地域保健・健康増進事業報告より)

(ア) 健康手帳交付

(人)

市町村名	交付数(年度中)		
	40~74歳	75歳以上	計
弘前市	0	0	0
黒石市	504	6	510
平川市	500	10	510
西目屋村	22	14	36
藤崎町	136	0	136
大鰐町	69	4	73
田舎館村	62	8	70
板柳町	0	0	0
管内計	1,293	42	1,335

(イ) 健康教育

(人)

市町村名	個別健康教育				集団健康教育	
	高血圧	糖尿病	高脂血症	喫煙	開催回数	延参加者数
	実施者数	実施者数	実施者数	実施者数		
弘前市	0	0	0	0	177	7,513
黒石市	0	0	0	0	103	3,828
平川市	0	0	0	0	0	0
西目屋村	0	0	0	0	1	117
藤崎町	0	0	0	0	87	1,178
大鰐町	0	0	0	0	15	236
田舎館村	0	0	0	0	19	712
板柳町	0	0	0	0	39	363
管内計	0	0	0	0	441	13,947

(ウ) 健康相談

(人)

市町村名	重点健康相談		総合健康相談	
	開催回数	延参加者数	開催回数	延参加者数
弘前市	35	152	41	695
黒石市	4	4	76	1,271
平川市	11	169	76	1,301
西目屋村	0	0	3	3
藤崎町	183	1,953	4	252
大鰐町	30	203	12	12
田舎館村	0	0	48	1,261
板柳町	27	1,422	39	68
管内計	290	3,903	299	4,863

(エ) 訪問指導

(人)

市町村名	被訪問指導 実人員	被訪問指導 延人員
弘前市	183	185
黒石市	36	36
平川市	361	375
西目屋村	97	128
藤崎町	388	409
大鰐町	12	30
田舎館村	233	277
板柳町	205	224
管内計	1,515	1,664

## 4 歯科保健事業

### ・親と子のよい歯のコンクール

健康な歯を持つ母と子を表彰し、幼児や父母及び地域社会の歯科保健への関心を深め、母子歯科保健の推進を図る。

- 対象者：前年度の3歳児歯科健康診査を受診した、むし歯ゼロの幼児296人と母親
- 開催月日：平成25年6月2日(日)
- 参加者：母子40組
- コンクール結果：黒石市の母子が最優秀となった。

## 5 栄養改善指導事業

### (1) 市町村栄養改善業務支援事業

市町村保健計画の企画・立案及び地域住民を対象とした栄養相談等の栄養改善業務に従事する者の資質向上を図る。

#### ア 連絡調整会議

開催年月日	内 容	参加人員
平成25年 5月22日 (水)	<p>&lt;説明&gt;平成25年度弘前保健所健康増進課活動方針について 健康増進課長 白戸 江美子</p> <p>&lt;情報交換&gt;平成25年度栄養改善に係る新規事業等の紹介 弘前市、黒石市、藤崎町、板柳町、保健所</p> <p>&lt;検討&gt;災害時の避難所献立(案)について</p> <p>&lt;情報提供&gt;①重症心身障害児者の栄養管理、②公衆栄養学臨地実習について 健康増進課 主査 久米田 桂子</p>	市町村行政栄養士 4名 保健所職員3名

#### イ 研修会 ※給食施設栄養管理指導事業(研修会)と併催

開催年月日	平成25年9月12日(木)
開催場所	青森県武道館 会議室1、2、3
内 容	<p>&lt;挨拶&gt;弘前保健所 所長 山中朋子</p> <p>&lt;講演&gt;テーマ:「健康長寿への提言」 講 師:弘前大学大学院医学研究科 科長 中路重之 氏</p> <p>&lt;講義①&gt;テーマ:「調理業務従事者に必要な栄養管理の知識」 講 師:弘前保健所健康増進課 栄養指導員 久米田桂子</p> <p>&lt;講義②&gt;テーマ:「給食施設の衛生管理について」 講 師:弘前保健所生活衛生課 食品衛生監視員 藤本道志</p>

#### ウ その他

- ①「災害時における避難所献立」の取りまとめ及び管内市町村への提供
- ②市町村事業に対する支援

弘前市食生活改善推進員養成講座(平成25年9月10日)

講義「食品衛生と生活環境保全」 生活衛生課長 山口 美由紀

(2) 食生活改善推進員連絡協議会育成

ア 研修会等

管内市町村食生活改善推進員リーダーを育成し、食生活改善事業の効果的な実施を推進し、住民の健康づくりを図る。

開催月日	内 容	参加人員
平成 25 年 4 月 23 日 (火)	弘前保健所管内食生活改善推進員連絡協議会総会	150 人
	第 1 回役員会	12 人
平成 25 年 7 月 2 日 (火)	三役連絡会議 ・ 7 月 9 日の研修会について ・ 理事会から伝達報告 ・ 北海道・東北ブロック大会参加費の補助金額について	5 人
平成 25 年 7 月 9 日 (火)	研修会 ・ おやこ食育教室メニュー (4 品) 調理実習・講話 講師 小山専門員 第 2 回役員会	17 人
平成 25 年 9 月 10 日 (火)	研修会 ・ 災害時簡単レシピ集メニュー (4 品) 調理実習・講話 講師 小山専門員 第 3 回役員会	19 人
平成 26 年 3 月 4 日 (火)	三役連絡会議 ・ 第 4 回役員会議題の素案作成	6 人
平成 26 年 3 月 18 日 (火)	第 4 回役員会 ・ 平成 26 年度事業計画について ・ 平成 26 年度総会等について ・ その他事務連絡	11 人

イ 管内市町村食生活改善推進員設置状況 (平成 26 年 3 月末現在)

市 町 村 名	基準人員数※ (人)	会 員 数 (人)	充 足 率 (%)
弘 前 市	1,123	159	14
黒 石 市	193	154	80
平 川 市	166	134	81
西 目 屋 村	8	9	113
藤 崎 町	83	47	57
大 鰯 町	61	62	102
田 舎 館 村	37	44	119
板 柳 町	78	26	33
合 計	1,749	635	36

※70 世帯に 1 人として算定

ウ 管内市町村食生活改善推進員養成講座実施状況

弘前市 (修了者 20 人)、平川市 (修了者 11 人)、板柳町 (修了者 9 人)

### (3) 給食施設栄養管理指導事業

#### ア 巡回指導

特定給食施設等に対し、喫食者に適切な栄養管理が実施されるよう必要な指導及び助言を行う。実施後は給食施設栄養指導票を交付する。

	指定給食施設		特定給食施設		特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設 (特定給食施設を除く)		総計
	有	無	有	無	有	無	
栄養士の配置の有無	有	無	有	無	有	無	
巡回指導対象施設数	3	0	80	18	86	30	217
巡回指導延施設数	1	0	28	10	46	15	100
指導率 (%)	33.3		35.0	55.6	53.5	50.0	46.1

#### イ 研修会

開催年月日	平成 25 年 9 月 12 日 (木) 13:30~16:30
開催場所	青森県武道館会議室 1、2、3
参集範囲及び参加者数	管内給食施設で給食業務に係る者 (管理栄養士、栄養士、調理師、事務職等) 170 名
内 容	<p>&lt; 挨拶 &gt; 弘前保健所 所長 山中朋子</p> <p>&lt; 講演 &gt; テーマ: 「健康長寿への提言」 講 師: 弘前大学大学院医学研究科 科長 中路重之 氏</p> <p>&lt; 講義① &gt; テーマ: 「調理業務従事者に必要な栄養管理の知識」 講 師: 弘前保健所健康増進課 栄養指導員 久米田桂子</p> <p>&lt; 講義② &gt; テーマ: 「給食施設の衛生管理について」 講 師: 弘前保健所生活衛生課 食品衛生監視員 藤本道志</p> <p>※平成 25 年度地域保健関係者研修会、平成 25 年度市町村栄養改善支援事業研修会と併催</p>

#### (4) 外食栄養成分表示店定着促進事業

外食利用者が栄養情報に基づく適切な料理選択を行い、食生活を要因とする生活習慣病予防を図ることが出来るよう外食栄養成分表示店の拡大を図る。

ア 平成 26 年 3 月末現在、弘前保健所管内外食栄養成分表示店登録延数：44 店舗  
(平成 25 年度 新規登録店 0 店舗)

イ 内 訳

市町村名	登録延数
弘前市	19
黒石市	19
平川市	1
西目屋村	0
藤崎町	0
大鰐町	3
田舎館村	1
板柳町	1
計	44

#### (5) 栄養表示基準制度等に係る指導及び相談

ア 目的

栄養表示基準制度の望ましい運営を図るため、表示の普及啓発及び活用について、消費者及び食品業者に対し適切な相談指導を行い、また広告等の表示の適正化を図り、消費者への適切な情報の提供を図る。

イ 指導及び相談件数 延べ 43 件 (商品数 30 件)

#### (6) 平成 25 年国民健康・栄養調査事業

ア 目的

健康増進法（平成 14 年法律 103 号）に基づき実施するものであり、国民の身体状況、栄養摂取量及び生活習慣の状況を明らかにし、国民の健康の増進の総合的な推進を図るために基礎資料を得るために実施する。

イ 調査地区、内容等

調査地区	西目屋村大字田代字神田	
対象世帯数	17 世帯	
対象者数	41 名 (満 1 歳以上)	
実施時期	平成 25 年 11 月中	
調査内容 及び 実施状況	①栄養摂取状況調査	16 世帯、37 名
	②生活習慣調査	36 名
	③身体状況調査	33 名 (来場者 8 名、血液検査 7 名)

## 6 精神保健福祉関係

### (1) 通報状況

(人)

区 分	申請 通報	調査により診察 の必要がないと 認めた者		診 察 を 受 け た 者		
		入院	その他	精 神 障 害 者		精神障害者で なかった者
				法第 29 条該当症 状の者	法第 29 条該当症 状でなかった者	
一 般 の 申 請	0	0	0	0	0	0
警 察 官 の 通 報	14	0	1	12 ※	1	0
検 察 官 の 通 報	10	0	5	1	4	0
保 護 観 察 所 長 の 通 報	0	0	0	0	0	0
矯 正 施 設 の 長 の 通 報	8	0	4	0	4	0
病 院 の 管 理 者 の 届 出	0	0	0	0	0	0
医 療 観 察 法 の 対 象 者	0	0	0	0	0	0
計	32	0	10	13	9	0

※ 管外 2 名を含む

### (2) 医療状況

#### ア 入院・通院状況

(人)

市町村別	入 院		通 院	計
	措 置	医療保護		
弘 前 市	3	1,125	2,534	3,662
黒 石 市	2	364	388	754
平 川 市	0	227	364	591
西 目 屋 村	0	7	13	20
藤 崎 町	1	94	170	265
大 鱈 町	0	87	106	193
田 舎 館 村	0	67	69	136
板 柳 町	5	81	172	258
合 計	11	2,052	3,816	5,879

イ 通院医療状況

疾病別患者数では、統合失調症（F2）が全体の43.2%を占め圧倒的に多い。（人）

市町村別	F0 症状性を含む器質性精神障害	F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	F3 気分障害	F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現障害	F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	F6 成人の人格及び行動の障害	F7 精神遅滞	F8 心理的発達障害	F9 小児期及び青年期に通常発症する行動の障害等	G40 てんかん	その他 分類不明	合 計
弘 前 市	101	77	1,074	698	121	8	32	36	66	19	210	92	2,534
黒 石 市	5	14	179	94	28	0	6	7	9	7	27	12	388
平 川 市	11	7	155	90	17	3	1	15	10	5	33	17	364
西目屋村	0	2	8	1	1	0	0	1	0	0	0	0	13
藤 崎 町	9	5	82	31	9	0	1	5	6	2	10	10	170
大 鰐 町	11	2	43	30	3	0	0	4	2	0	8	3	106
田舎館村	5	0	34	13	4	0	0	3	2	1	3	4	69
板 柳 町	17	1	73	34	8	0	3	5	4	0	18	9	172
合 計	159	108	1,648	991	191	11	43	76	99	34	309	147	3,816

(3) 精神障害者保健福祉手帳所持者数

所持者数の割合で見ると、1級34.9%、2級55.2%、3級9.9%となっている。（人）

市町村別	1 級	2 級	3 級	計
弘 前 市	537	861	150	1,548
黒 石 市	68	150	32	250
平 川 市	87	108	28	223
西目屋村	5	3	0	8
藤 崎 町	42	65	5	112
大 鰐 町	27	33	6	66
田舎館村	17	25	3	45
板 柳 町	33	44	8	85
合 計	816	1,289	232	2,337

(4) 精神保健福祉相談（定期・随時・電話）

受診及び入院に関する相談（33.3%）が最も多く、次いで性格・行動上のことについて（12.7%）が多かった。

ア 相談開設日及び従事者

	定 期 相 談 【予約制】	定期外相談・電話相談
開 設 日	偶数月 第2・第4木曜日 奇数月 第2木曜日 ※受付 13:00～14:00	随 時
従 事 者	嘱託医 ・弘前愛成会病院 院長 田崎 博一 ・藤代健生病院 名誉院長 坂本 隆 ・弘前大学医学部附属病院 医師 菅原 典夫 保健師	保 健 師

## イ 相談内容

(人)

	相談件数	主な相談内容															平成24年度
		受診・入院について	通院・服薬指導について	生活指導について	経済的問題について	性格・行動上について	患者への接し方について	アルコールについて	薬物について	人間関係について	施設入所について	社会復帰について	福祉サービスについて	ひきこもりについて	自殺関連	その他	
合計	569	162	24	30	3	71	28	21	3	3	6	6	1	24	4	183	561
定期	50 (38)	21	1	3	0	2	12	1	0	0	0	0	0	10	0	0	42 (37)
随時	51 (43)	31	0	3	2	1	2	0	0	0	1	1	0	2	2	6	84 (66)
電話	468	110	23	24	1	68	14	20	3	3	5	5	1	12	2	177	435

\* ( ) 内の数値は実数

## ウ 定期・随時相談の相談者内訳 (延数)

続柄	相談件数	本人	家族等				
			配偶者	父・母	同胞	子	その他
来所相談	101	16	12	41	16	7	31

## エ 相談経路

来所相談件数	自発来所	関係機関の紹介				その他
		市町村	医療機関	警察署	その他	
101	42	6	6	14	21	12

## (5) 家庭訪問

家族の依頼や関係機関等の連絡による受診勧奨の支援や、また職親制度利用者について、協力事業所や医療機関と連携の上、対応している。

(人)

平成25年度 訪問件数 (件)	対象者別訪問状況							支援内容 ※延件数						平成24年度 訪問件数
	総計	一般	職親事業	アルコール	ひきこもり	社会復帰	その他	受診・入院に向けた調整	通院・服薬指導	生活指導	家族関係調整	社会復帰	その他	
延数	116 (55)	55	2	2	3	2	52	22	2	36	0	2	54	125 (64)

\* ( ) 内の数値は実数

(6) 社会復帰支援対策

ア 社会適応訓練事業（職親制度）

回復途上にある通院中の精神障害者を、一定期間、協力事業所に通わせ社会適応訓練を実施することにより再発防止と社会的自立を促進し社会復帰を図っている。

項目	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度
登録協力事業所 (新規再掲)	21 ヲ所 (1)	20 ヲ所 (0)	20 ヲ所 (0)
事業所別 利用者	医療機関 1 人	弁当屋 1 人 紙工店 1 人	弁当屋 2 人
利用者数 (新規再掲)	1 人 (1 人)	2 人 (2 人)	2 人 (0 人)
転 帰	継 続		
	中 止	0 人	1 人
	(内訳)		就職 1 人
	終 了	1 人	1 人
	(内訳)	就職 1 人	就職 1 人 就労サポート利用 1 人

イ 社会適応訓練事業利用者連絡会

社会適応訓練事業利用者が参集し訓練計画の作成・情報交換、保健師による個別相談を利用する。

(ア) 実施回数 0 回（偶数月に 1 回開催：第 3 金曜日 13:00～15:00）

(イ) 利用者数 延人数 1 人（実人数 1 人）

(ウ) その他 保健所に来所せず、協力事業所で本人及び指導者の面接を実施した。

ウ 精神障害者社会復帰支援協議会

精神障害者の社会復帰、自立及び社会参加の促進及び社会適応訓練事業の円滑な運営を図るため、関係機関、関係団体等による協議を行う。

開催年月日	出席者	内 容
平成 26 年 1 月 24 日 (金)	①協議会委員 11 人 ②代理者 2 人 ③事務局 5 人 計 18 人	1 協議 社会適応訓練事業について 2 情報交換 医療保護入院者の退院促進の流れと地域生活支援 について 3 その他 精神障害者アウトリーチ支援事業の実施状況

エ 精神障害者アウトリーチ支援事業

精神医療の受療中断者、自らの意思では受診が困難な精神障害者（未受診者）、長期入院等の後退院した者、入退院を繰り返す精神障害者等の地域生活定着のため、一定期間、保健、医療及び福祉・生活の包括的な支援を行うことにより、新たな入院及び再入院を防ぎ、地域生活が維持できるような体制を地域において構築することを目的に実施した。

(ア) 受託事業所数：1カ所

(イ) 支援対象者：16人（受療中断者 12人、入退院を繰り返す者 4人）

(ウ) 保健所の役割

- ・ケア会議参加による支援状況への助言、対象者選定の検討
- ・対象者紹介、初回同行訪問、継続同行訪問
- ・6か月評価への参加
- ・関係者への事業等周知、情報提供

(7) 自殺対策事業

ア 「地域特性を踏まえた自殺対策力強化」事業

管内の自殺者数は減少傾向にあるが、40～60代の男性の自殺が多く、加えて核家族化や高齢者世帯が増加している中、地域住民が相互に支え合う地域力の低下が危惧されていることから、自殺企図者の実態を把握し、地域の実状に合った対策を検討するとともに、安全で安心なまちづくりとして、住民の意識の啓発、地域及び関係者の潜在力の発掘、育成をする。

(ア) ゲートキーパースキルアップ研修会

開催年月日	参加者	内 容
平成 26 年 2 月 14 日（金）	管内市町村保健師等 23 人	1 情報交換 「弘前保健所管内の精神保健福祉対策及び精神障害者支援の取組」 2 情報提供 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正について」 3 講演 テーマ「現在の精神疾患概念」 講 師 藤代健生病院院長 関谷修氏 4 質疑応答・意見交換 ※保健師業務連絡会議併催

(イ) 自殺企図者実態調査

- ・調査対象：平成 23～24 年における管内 1 消防本部の救急出動のうち「自損行為」  
251 件（男 115 件、女 135 件、不明 1 件）
- ・結果報告：自殺未遂者支援対応力向上研修（H26 年 2 月 22 日）、自殺対策ネットワーク会議（H26 年 2 月 28 日）

## イ 自殺対策ネットワーク構築事業

目的：働き盛りの壮年期男性に自殺者が多いことから、壮年期の自殺対策を効果的に実施するためのネットワークを構築し、総合的な自殺対策を推進する。

(ア) 自殺対策ネットワーク会議（※津軽地域精神科救急医療システム連絡調整委員会と併催）

開催年月日	参加者等	内 容 等
平成26年 2月28日（金）	医師会、医療機関、警察署、消防本部等 17人	1 情報提供「自殺企図者実態調査について」 2 意見交換

(イ) 市町村支援（事業企画、運営支援等）  
・自殺予防実務者会議及び研修会等打合せ（藤崎町等）

## (8) 連携組織に対する支援

### ア 精神障害者家族会等

家族会等組織が自立した活動を継続できるよう、地域家族会については、自主的な会運営の推進のために、随時相談等で対応した。

### イ 精神保健福祉ボランティア

精神保健福祉ボランティア講座修了者が平成16年度に「リボンの会」を設立、現在会員数は22人で自主活動をしている。

## (9) ケース処遇に関する会議

心神喪失者等医療観察法に基づく処遇、地域移行支援特別対策事業や精神障害者アウトリーチ支援に係る対象者の支援、退院後の処遇等について、医療機関、青森保護観察所、市町村等の関係機関と協議、検討を行った。

### ア 開催回数等

- ① 開催回数：48回
- ② 事例数：延130件

### イ 実施内容

- ① 精神障害者アウトリーチ支援事業に基づくケア会議等：12件
- ② 精神障害者地域ケア会議：25件
- ③ 心神喪失者等医療観察法に基づく処遇検討：11件

## (10) 精神科病院に対する実地指導について

障害福祉課と同行し、精神科病院実地指導は5医療機関に対して、利用者の処遇等について指導を行った。

(1 1) 津軽地域精神科救急医療システム稼働状況

救急当番病院は当地域には4病院あり、休日・夜間の精神科救急に対応している。受診にあたってはかかりつけ医療機関を優先として実施している。精神疾患のため緊急に医療を必要としている精神障害者が受療しているが、診察の結果29.5%が入院医療を必要としている。

病 院 名	平成 25 年度	内 訳			平成 24 年度
		電話のみ	来 院	入 院	
弘前愛成会病院	179	99	80	37	154
藤代健生病院	224	2	222	49	182
黒石あけぼの病院	33	17	16	7	19
聖康会病院	2	1	1	1	2
合 計	438	119	319	94	357

(1 2) 津軽地域精神科救急医療システム連絡調整委員会

津軽地域の救急医療システムの円滑な運営を図るために、医師会、医療機関、警察署、消防本部をメンバーとする連絡調整委員会を開催している。

開催年月日	出席者	内 容
平成 26 年 2 月 28 日 (金)	委員 8 人 医師会 2 医療機関 5 * 警察署 1 消防本部 1 *うち1:医師会と兼ねる	議題 (1) 津軽地域精神科救急医療システム事業実績について (2) 精神科救急医療システムの運営に係わる課題について ※自殺対策ネットワーク会議と併催

## 7 難病関係

### (1) 特定疾患治療研究事業

難病のうち、治療方法が確立していないなど治療が極めて困難で、症状も慢性に経過し、後遺症を残すことが少なくなく、そのうえ社会復帰が難しく医療費も高額なため、経済的な問題や介護等家庭的にも精神的にも負担の大きい疾病であり症例が少ないことから、全国的規模での研究が必要な疾患を特定疾患と定義している。

現在特定疾患は130疾患あり、そのうち56疾患を公費負担の対象としている。

#### ア 特定疾患医療受給者数

疾患番号	疾患名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1	ベーチェット病	75	76	83	86
2	多発性硬化症	39	43	44	47
3	重症筋無力症	43	41	41	45
4	全身性エリテマトーデス	135	138	142	141
5	スモン	2	2	3	3
6	再生不良性貧血	51	49	50	51
7	サルコイドーシス	69	77	83	92
8	筋萎縮性側索硬化症	33	32	30	36
9	強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	109	119	124	131
10	特発性血小板減少性紫斑病	62	66	70	76
11	結節性大動脈炎	10	13	16	19
12	潰瘍性大腸炎	208	234	253	272
13	大動脈炎症候群	16	14	14	15
14	ビュルガー病	31	31	30	30
15	天疱瘡	10	11	11	11
16	脊髄小脳変性症	70	74	76	76
17	クローン病	69	73	78	85
18	難治性肝炎のうち劇症肝炎	0			
19	悪性関節リウマチ	18	21	22	20
20	パーキンソン病関連疾患	329	337	347	367
21	アミロイドーシス	3	3	4	4
22	後縦靭帯骨化症	153	167	167	179
23	ハンチントン病	0			
24	モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	13	14	17	16
25	ウェゲナー肉芽腫症	3	3	3	3
26	特発性拡張型（うっ血性）心筋症	37	39	36	41
27	多系統萎縮症	24	22	24	24
28	表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	1	1	1	2
29	膿疱性乾癬	2	2	3	3
30	広範脊柱管狭窄症	10	9	8	7
31	原発性胆汁性肝硬変	42	43	46	46
32	重症急性膵炎	1	2	2	2
33	特発性大腿骨頭壊死症	61	63	72	71
34	混合性結合組織病	21	21	24	24
35	原発性免疫不全症候群	2	2	2	2
36	特発性間質性肺炎	5	4	3	6
37	網膜色素変性症	45	43	41	42
38	プリオン病	1			1
39	原発性肺高血圧症	3	2		2
40	神経線維腫症（I型・II型）	9	10	11	12
41	亜急性硬化性全脳炎	0			
42	バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0			
43	特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	3	3	3	4
44	ライゾゾーム病	0			1
45	副腎白質ジストロフィー	1	1	1	1
46	家族性高コレステロール血症	0			
47	脊髄性筋萎縮症	0		2	2
48	球脊髄性筋萎縮症	5	7	7	7
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14	16	17	17
50	肥大型心筋症	1	1	1	1
51	拘束型心筋症	0		1	
52	ミトコンドリア病	1			
53	リンパ管筋腫症	0			
54	重症多形滲出性紅斑	0			
55	黄色靭帯骨化症	4	6	12	11
56	間脳下垂体機能障害	68	74	77	82
	合計	1,912	2,009	2,102	2,216

\*疾病番号20（パーキンソン病関連疾患）には、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病が含まれ、疾病番号27（多系統萎縮症）には、腺条体黒質変性症、オリブ橋小脳変性症、シャイ・ドレーガー症候群が含まれ、疾患番号56（間脳下垂体機能障害）には、プロラクチン分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症を含んでいる。  
\*疾病番号46から56までについては平成21年度に追加となった。

イ 市町村別特定疾患医療受給者数（平成25年度内訳）

疾患 番号	疾患名	弘 前 市	黒 石 市	平 川 市	西 目 屋 村	藤 崎 町	大 鰯 町	田 舎 館 村	板 柳 町	総 計
1	ベーチェット病	47	12	11	1	2	6	6	1	86
2	多発性硬化症	30	5	4		2	3	3		47
3	重症筋無力症	28	3	5		2	3		4	45
4	全身性エリテマトーデス	92	20	13		6	3	3	4	141
5	スモン	3								3
6	再生不良性貧血	30	8	5	2	1		1	4	51
7	サルコイドーシス	58	14	11		4		2	3	92
8	筋萎縮性側索硬化症	22	3	6	1	1	1	1	1	36
9	強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	81	12	19		4	4	2	9	131
10	特発性血小板減少性紫斑病	51	5	7	1	5	2		5	76
11	結節性動脈周囲炎	10	4	4			1			19
12	潰瘍性大腸炎	175	29	25	2	13	6	12	10	272
13	大動脈炎症候群	9	2	1		3				15
14	ビュルガー病	16	4	4			3	1	2	30
15	天疱瘡	10	1							11
16	脊髄小脳変性症	52	9	4		4	1	2	4	76
17	クローン病	50	9	10		4	6	3	3	85
18	難治性肝炎のうち劇症肝炎									0
19	悪性関節リウマチ	10	1	1		2	2	1	3	20
20	パーキンソン病関連疾患	211	49	39	4	18	14	11	21	367
21	アミロイドーシス	3				1				4
22	後縦靭帯骨化症	106	23	16	1	12	6	2	13	179
23	ハンチントン病									0
24	モヤモヤ病（ウイルス動脈輪閉塞症）	9	2	4		1				16
25	ウェゲナー肉芽腫症	1	1				1			3
26	特発性拡張型（うっ血性）心筋症	29	2	3		4			3	41
27	多系統萎縮症	12	5	2		2	2		1	24
28	表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2								2
29	膿疱性乾癬	2		1						3
30	広範脊柱管狭窄症	6							1	7
31	原発性胆汁性肝硬変	24	6	10			4		2	46
32	重症急性膵炎	1		1						2
33	特発性大腿骨頭壊死症	37	11	9		7		4	3	71
34	混合性結合組織病	9	6	4		2	1		2	24
35	原発性免疫不全症候群	2								2
36	特発性間質性肺炎	2				2			2	6
37	網膜色素変性症	28	5	3		1	1	2	2	42
38	プリオン病		1							1
39	原発性肺高血圧症	1				1				2
40	神経線維腫症	8	1		2				1	12
41	亜急性硬化性全脳炎									0
42	バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群									0
43	特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	2	1	1						4
44	ライソゾーム病	1								1
45	副腎白質ジストロフィー	1								1
46	家族性高コレステロール血症									0
47	脊髄性筋萎縮症	1	1							2
48	球脊髄性筋萎縮症	6				1				7
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13	3			1				17
50	肥大型心筋症	1								1
51	拘束型心筋症									0
52	ミトコンドリア病									0
53	リンパ脈管筋腫症									0
54	重症多形滲出性紅斑									0
55	黄色靭帯骨化症	9	1				1			11
56	間脳下垂体機能障害	53	8	4		5	6	1	5	82
	合 計	1,354	267	227	14	111	77	57	109	2,216

## (2) 難病患者等相談事業

### ア 医療相談

難病患者やその家族の抱える医療及び日常生活上の相談に対し、専門医等による指導・助言等を行い、在宅療養の推進を図りながら、関係者間での連携を強化し、安心・安全に療養できるためのネットワークづくりを図る。

#### ○医療相談 4 回実施

回	1	2	3	4
日時	H25. 6. 22 (土) 14:00～16:30	H25. 7. 28 (日) 13:00～16:30	H25. 9. 11 (水) 14:00～16:00	H25. 10. 10 (木) 13:30～15:30
場所	弘前市社会福祉センター 大会議室	弘前文化センター	田舎館村 患者自宅	弘前市総合学習センター
対象者	県内網膜色素変性症患者・家族 (当管内対象者 41 名)	筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症・多系統委縮症、パーキンソン病、膠原病の患者・家族	・ ALS 患者及びその家族 ・ 支援関係者 ・ 医療機器会社 ・ 消防署 ・ 東北電力	弘前市のパーキンソン病患者及びその家族、前年度参加者、患者会津軽ブロック会員、250 人
参加者	80 名 ・ 患者・家族 47 名 ・ ボランティア 23 名 ・ 関係者 10 名 難病連 4 名 患者会設立発起人 1 名 保健所 5 名	70 名 4 会場に分かれて実施 ①筋萎縮性側索硬化症患者・家族 11 名 ②脊髄小脳変性症・多系統委縮症患者家族 16 名 ③パーキンソン病患者家族 25 名 ④膠原病患者家族 18 名	22 名参加 ALS 患者家族 (本人, 妻, 次男) 支援関係者 専門医 1、主治医 1、病院訪問看護 4、訪問看護 ST3 か所 4、村保健師 1、居宅介護事業所 2 か所 2、消防署田舎館分署 1、東北電力 1、保健所 4	60 名参加 パーキンソン病患者家族 48 人 市保健師 1 人 難病相談支援センター 2 人 保健所 7 人
従事者	保健師 3 訪問相談員 2	保健師 4 事務 2 訪問相談員 2	所長 保健師 3	所長、保健師 4 訪問相談員 2
内容	全体進行 難病連今井事務局長 1 挨拶 難病連村木会長 2 講話「講話「網膜色素変性症の病状と生活の質の向上について」 講師 日本網膜色素変性症協会理事 長澤源一氏 (秋田市)」 3 交流会、今後のことについて話し合い (進行患者会設立発起人 篠ヶ沢一司) 4 福祉用具の展示	各患者会と協力して患者家族交流会を実施	神経内科医による医療相談及び療養状況把握 専門医：国立病院機構青森病院副院長 高田博仁(神経内科医師)	1 講話「パーキンソン病と向き合い安心・安全に療養するために」 講師 国立病院機構青森病院副院長高田博仁(神経内科医師) 2 実技「生活の中で継続できるリハビリ」 講師 国立病院機構青森病院 理学療法士長 3 交流会 4 神経内科医の個別相談 5 人 理学療法士の個別相談 5 人
備考	青森県難病団体等協議会の患者家族交流会と併催。難病連から県内各保健所に周知依頼。	難病連医療フォーラム第 2 部医療相談、交流会 (6 分科会のうち 4 分科会に併催)		パーキンソン病患者会津軽ブロックの活動と共催

#### ○ケア会議 5 回実施

患者本人、家族、支援関係者によるケア会議を随時実施している。

### イ 訪問相談

医療相談に参加できない難病患者やその家族の抱える医療及び日常生活上の相談に対し、相談員等による日常生活上の相談、指導、助言及び精神的支援を行い、在宅療養の推進を図る。

(ア) 訪問相談

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
保健所保健師 (件)	42	41	22	36
訪問相談員 (件)	113	124	120	160
計	155	165	142	196

(イ) 打ち合わせ会

開催年月日	平成 25 年 4 月 22 日 (月)	平成 25 年 8 月 5 日 (月)	平成 25 年 12 月 2 日 (月)	平成 26 年 2 月 24 日 (月)
内容	・「相談員の証」 交付 ・H25 年度計画 ・情報交換	・訪問実施状況 ・ケースカンファレンス ・情報交換	・訪問実施状況 ・ケースカンファレンス ・情報交換 ・記録ファイル整理	・ケースカンファレンス ・H25 年度実施状況 ・H26 年度計画 ・情報交換

(3) 新規特定疾患医療受給者証交付時相談及び継続申請時相談

新規に難病と診断された患者やその家族が抱える医療及び日常生活に関する悩みに対し、特定疾患医療受給者証の交付時を利用した相談・指導・助言及び精神的支援を行い、難病患者の在宅療養の推進を図る。

平成 22 年度から保健師配置し、継続申請時の相談(6～8 月実施)を行っている。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
受給者証交付時相談 (件)	159	134	140	131
継続申請時相談 (件)	1,611	562	864	1,474
電話相談 (件)	70	62	21	15
計	1,840	758	1,025	1,609

(4) 患者会支援

同じ疾患をもつ患者やその家族が、医療や日常生活に関する悩みを共有し難病と闘っていく心の支えとするための活動を行う等、難病患者が在宅療養の推進を図ることの支援を行う。

- ア 自主的組織 (まるめろの会「後縦靭帯骨化症患者会」) 活動への支援  
情報提供等
- イ 患者会 (全国パーキンソン友の会青森県支部津軽ブロック) 活動への支援  
患者会と共催で医療相談の実施、情報提供等
- ウ 患者会 (青森SCD・MSA友の会) 活動への支援  
情報提供等
- エ 患者会 (全国膠原病友の会青森県支部みつばち会) 活動への支援  
全国膠原病友の会青森県支部 2013 年度医療講演会に協力
- オ 網膜色素変性症患者会設立準備への支援

(5) 在宅重症難病患者家族支援事業

- ・受託先：ケアサービス弘前看護婦家政婦紹介所、利用者数：0人

## 8 津軽地域 地域・職域保健連携推進事業

当圏域は、短命地域であり、また自殺による死亡率も高い等の健康課題を抱えていることから市町村や保健所等で実施している保健サービスと職域で実施している保健事業について相互の連携を密にし、生活習慣病の予防やメンタルヘルス対策について、効果的な健康づくりを推進する。

### (1) 地域・職域保健連携対策検討会

単独開催せず、地域保健医療推進協議会と併催した。

○実施日時：平成 26 年 3 月 7 日（金）13：30～15：00

○場所：ラグリー

○内容：①青森県保健医療計画について

②津軽健康 21（第 2 次）について

### (2) 市町村・事業所における健康づくり研修会、支援

開催年月日	参加者	内 容 等
平成 25 年 5 月 31 日（金）	青森県立弘前高等技術専門 校生徒 115 人	○講話「たばこと健康」 ・講師：弘前保健所 技師 柴田早紀
平成 25 年 10 月 10 日（木）	みちのくコココーラボトリ ング(株)黒石営業所職員 18 人	○講演「生活習慣病の予防について」 ・講師：弘前保健所 主査 阿部久美
平成25年 12月17日（火）	農業士の会会員 44人	○講話「喫煙、食生活（減塩、間食、飲酒）」 ・講師 弘前保健所 主査 久米田桂子 技師 柴田早紀

## 9 保健師業務連絡会議

管内市町村・事業所等に勤務する保健師を対象として、保健活動に関する情報交換及び学習会を開催し、業務の円滑化を図る。

開催年月日	参加者	内 容
平成 25 年 12 月 25 日 （水）	市町村 12 人 保健所 11 人 計 23 人	(1) 情報交換「健康寿命アップに向けたキラッと光る具体的取組」 ①住民の実態を重視した施策の実施（藤崎町） ②モデル地区に対する糖尿病対策の推進（黒石市） ③歯科口腔保健の推進に関する糖尿病対策の推進（西目屋村） (2) 活動報告 ①平成 25 年度台風 18 号被害に対する被災者支援の取組（板柳町） ②台風被害に対する各市町村の取組み状況、意見交換 ③水害発生時の消毒と感染予防の知識（弘前保健所指導予防課） (3) 演習「地震を想定したシミュレーション」 ～実際に起こった時にどう動くか、平常時に何を準備しておくべきかを考える～ ○避難所の初期運営態勢を考える（HUG による避難所運営演習）
平成 26 年 2 月 14 日 （金）	市町村 14 人 保健所 9 人 計 23 人	(1) 情報交換「弘前保健所管内の精神保健福祉対策及び精神障害者支援の取組」 (2) 情報提供「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正について」 (3) 講演 テーマ「現在の精神疾患概念」 講師 藤代健生病院院長 関谷修氏 (4) 質疑応答・意見交換

※ゲートキーパースキルアップ研修併催

## 10 保健師の育成支援

### (1) 保健所新任等保健師育成支援事業

行政機関で保健活動を経験したことのある退職保健師がトレーナー保健師として、保健所の新任保健師が行う保健活動について支援するものである。

#### ア 打合せ、評価会

○内容：当所において3回実施。トレーナー保健師、健康福祉政策課、保健所により、事業計画、進捗状況、実施状況と今年度の振り返り、来年度の課題等について意見交換をした。

○実施月日：平成25年6月14日（金）、平成25年9月30日（月）、平成26年2月27日（木）

#### イ 活動日数及び内容

○トレーナー保健師活動日数 25.0日

項目	日数	内容
①家庭訪問	12.0	・乳児 8件（実3件） ・難病 6件（実5件）
②市町村等事業	6.0	・特定健診結果説明会（黒石市）：2回 ・精神障害者デイケア（大鰐町）：1回 ・親子遊ゆう教室（弘前市）：1回 ・1歳6カ月児健診（弘前市）：1回 ・3歳児健診（弘前市）：1回
③保健所事業	4.0	・特疾、小慢継続申請面接：4回
④活動打合せ、評価会	3.0	

### (2) 新任等保健師育成支援事業

行政機関で保健活動を経験したことのある退職保健師がトレーナー保健師として、市町村の新任保健師が行う保健活動について支援するものである。

#### ア 対象者：弘前市保健師3名

#### イ 打合せ、評価会

(ア) 内容：計画打合せ、進捗状況評価、結果評価と次年度の課題等について意見交換

(イ) 月日：①平成25年6月14日（金） ②平成25年10月9日（水）

③平成26年2月27日（木）

(ウ) 場所：弘前市保健センター

(エ) 各回の出席者：トレーナー保健師1名、弘前市10～11名、健康福祉政策課1名、県国民健康保険連合会1名、保健所3名

#### ウ 活動日数及び内容

○トレーナー保健師活動日数 30.0日

項目	日数	内容
①家庭訪問	22.0	・のべ49件
②健康相談	2.0	・地区の健康相談1回、乳児相談1回
③健康教育	3.0	・出前講座
④活動打合せ、評価会	3.0	

### (3) 初任期保健師及び新任期保健師研修

初任期保健師及び新任期保健師が、保健師の専門能力を発揮し、地域保健活動を展開できるよう、対人支援や保健事業実施のための基本的な実践能力を身につけるとともに、現任教育の体制づくりを推進する。

#### 【目標】

＜初任期＞（1年未満）

担当業務を中心に法令や施策体系を理解し、公衆衛生の視点を持って個人の対人支援や保健事業の実施ができる。

＜新任期＞（1年以上5年未満）

基本的な実践能力を確実なものとして保健師活動を展開することができ、最適なサービス提供のために、関係職種、関係者を選択し、連携・調整ができる。

#### ア 対象者

人数	弘前市	平川市	西目屋村	藤崎町	板柳町	保健所	計
初任期	3	0	0	0	0	1	4
新任期	4	1	1	2	1	3	12
計	7	1	1	2	1	4	16

\*黒石市、大鰐町、田舎館村は対象者なし

#### イ 内容

	開催年月日	プログラム	出席者数
1	平成 25 年 7 月 22 日 (月)	○講義 ・公衆衛生における保健所の機能と役割及び津軽地域保健医療圏の保健衛生の概要 ・市町村と保健所保健師の役割 ・先輩保健師から「板柳町保健師活動を通して後輩に伝えたいこと」 ○グループワーク ・めざす保健師の姿 ・地域診断の実施に向けて	初任期：3人 新任期：8人
2	平成 25 年 10 月 4 日 (金)	○施設見学「国立病院機構弘前病院NICU」 ○母子保健ネットワーク会議と併催 ・未熟児等共有システム運用状況 ・未熟児等のフォローアップ及び在宅医療 ・情報交換	初任期：3人 新任期：10人
3	平成 25 年 10 月 4 日 (金)	○事例検討 ○グループワーク ・地域診断に向けた情報交換	初任期：3人 新任期：9人
4	平成 26 年 1 月 28 日 (火)	○地域診断発表会 ○グループワーク ・今年度を振り返っての意見交換	初任期：2人 新任期：7人

## 1 1 石綿に係る健康相談等及び被害救済制度に関する申請状況

石綿による健康被害の特殊性にかんがみ、石綿による健康被害を受けた者及びその遺族に対し、医療費等を支給するための措置を講ずることにより、石綿による健康被害の迅速な救済を図る。

### (1) 石綿健康被害救済制度に係る申請受付状況

平成25年度においては、認定申請1件の申請があった。

## 1 2 保健協力員の育成支援事業

市町村等が所管し育成している保健協力員等組織を対象に、活動に関する情報交換と地域の健康問題についての学習、意見交換等を行い、管内の保健協力員等の活動の活性化及び健康水準の向上に寄与することを目的に支援した。

### (1) 実施状況

#### ア 研修会

開催年月日	場 所	内 容	参 加 者
平成25年 8月21日(水)	平川市文化センター	1 講習及び演習 「心を動かす検(健)診のススメ」 講師 県在宅保健師の会会長 山崎正子氏 2 研修報告 「長野県須坂市の保健補導員の活動報告から」 報告者 弘前市町会連合会保健衛生委員長 吉本睦子 3 レクリエーション 「いきいき健康体操」 指導 藤崎町保健推進委員 4 講演「あおもりの未来を作るヘルシリテラシー(健康サポーター育成研修)」 講師 (社)県薬剤師会衛生検査センター所長 川村仁氏	保健協力員 50人 市町村担当者 9人 講師国保連等 8人 保健所 6人 計 73人

#### イ 役員会

開催年月日	内 容	参 加 者
平成25年 6月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度事業及び決算報告について</li> <li>平成25年度事業計画及び予算(案)について</li> <li>その他</li> </ul>	保健協力員 8人 市町村担当者 8人 保健所 4人 計 20人
平成26年 2月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度事業及び決算報告について</li> <li>平成26年度事業計画について</li> <li>その他</li> </ul>	保健協力員 8人 市町村担当者 7人 保健所 4人 計 19人

## (2) 管内市町村保健協力員等の設置状況

(平成 25 年 4 月現在)

市町村名	名称	人数 (人)	(*印再掲)		任期/組織名	担当部局
			*男	*女		
弘前市	保健衛生委員	566	177	389	なし/町会連合会 保健衛生委員会	町会連合会 事務局
黒石市	保健協力員	224	3	221	2年/組織なし	健康推進課
平川市	保健協力員	193	1	192	2年/保健協力員会	健康推進課
西目屋村	保健協力員	21	0	21	2年/保健協力員会	住民課
藤崎町	健康推進員	126	1	125	2年/健康推進員会	福祉課
大鱈町	保健協力員	60	0	60	2年/保健協力員会	保健福祉課
田舎館村	保健協力員	61	0	61	2年/保健協力員会	厚生課
板柳町	保健衛生協力委員	90	43	47	2年/組織なし	健康福祉課
	計	1,341	225	1,116		

## 1.3 医療技術者等の研修・実習

看護学生等が、保健所の機能と役割を理解し、地域の健康課題の解決に向けて、地域特性を踏まえ、関係機関と連携し展開している事業や活動の実際を学ぶことを目的とする。

対象者	日数	人数	内容
弘前医療福祉大学保健学部看護学科4年生	1日	48人	集合研修 ・臨地実習に備えた事前研修 ・場所：各施設
弘前大学医学部保健学科看護学専攻4年生	1日	87人	
弘前学院大学看護学部看護学科3年生	1日	46人	
県立保健大学栄養学科3年生	5日	4人	講義及び見学等 ・場所：保健所、管内市町村

## 1.4 包括ケアシステム推進事業

複雑・多様化する県民の保健・医療・福祉ニーズに、的確に対応することが求められていることから、県基本計画の最重要戦略「あおり型セーフティネット」に位置付けられる「保健・医療・福祉包括ケアシステム」の構築に向け、二次保健医療圏及び市町村の実情に応じた体制整備について協議検討を行うこととしている。

25年度は、保健・医療・福祉包括ケアシステム推進に係る会議のほか、管内の病院・診療所の連携担当者のネットワーク会議に参加した。

## 【実施状況】

	実施内容	開催年月日及び場所	内容
1	地域医療・地域介護連携担当者意見交換会	平成25年10月12日(土) 13:30~17:00 岩木文化センターあそべーる、 中央公民館岩木館 131人	①シンポジウム 地域包括支援センター、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、在宅医療を担う医師からの発表及び課題提起 ②グループ討議、グループ討議の結果発表
2	知事との包括ケアシステムに係る現地懇談会	平成25年11月21日(木) 藤崎町ふれあいずーむ館	「住民の実態を捉えた生活習慣病対策の展開」